特集 教職員のおすすめ本

生きていると、日々の中で嬉しいことも悲しいこともありますね。私はいつも、“あらゆる経験からいかに学び成長するか”が大切だなぁと考えています。しかし、さまざまな経験は、すべて自分で選択できるものでしょうか。

今回ご紹介する〔選択の科学〕は私が初めて就職したときに出会ったもので、人が選択するというのはどういうことなのか？について理解を深めることができます。著者のシーナ・アイエンガーさんは、シーク教徒として宗教の教えに従って髪型や着るものも決められていましたが、アメリカの学校へ進学した際に、「『選択』こそ力であること」を学びます。また、本の中には「わたしたちが『選択』と呼んでいるものは、自分自身や、自分の置かれた環境を、自分の力で変える能力のことだ。選択するためには、まず『自分の力で変えられる』という認識をもたなくてはならない。」という一節があります。

最近では“〇〇ガチャ”のような言葉もありますね。与えられた環境やできごとの中で、どうにもできない、仕方がない、と思うことは誰しもあると思います。しかし、それらとどう向き合っていくか、どうやって自分らしく人生を切り拓いていくか…または選択できないということは不幸なことなのか？ぜひこの本を通して考えてみてもらえたら嬉しいです。大学生活はこれまでとはまた違ったさまざまな選択が増えていくと思います。友達や家族、教職員などたくさんの人たちとつながりながら、たくさん悩みながら、選択を積み重ねていってほしいと思います。

『選択の科学 ：
コロンビア大学
ビジネススクール特別講義』

シーナ・アイエンガー
櫻井祐子訳
文藝春秋
361.4||I97